

My Experience in Kyoto University

LEE SUE LING, NAOMI HASHIMOTO
August 1-12, 2016

この二週間の中に、日本語関連の専門的な授業が合計11コマありました。私は白方先生の日本語Ⅲを受講しました。白方先生から、エッセイ、小説、新聞記事など、様々なジャンルを通じて、京都について教わりました。その中で、京都についていろいろな視点から観察しました。京都が好きな作家もいれば、京都が嫌いという作家もいます。京都は日本の伝統の代表として、世界中の人々に「古都」として知られていますが、その古都らしい景観を守るために、どういう問題点が生じるのか、どんな規制が作られてきたのか等を学びました。京都では景観条例が定められており、建物の高さや、看板の大きさや色が決められています。しかし、看板を変更するには時間とお金を費やすため、多くの業者が規制に従わないことがありました。このように、「古都」の景観を保つことがいかに大変なことなのかを様々な面から知ることができました。これまで、インターネットや雑誌などで京都を表面的にしか見ていなかったのですが、このプログラムの、特に白方先生の授業を通して、京都についてより深く理解できたと思います。

他の東南アジア諸国から来た大学生、そしてこのプログラムをサポートしてくれた京大生と、毎日日本語で互いの国や文化について話し合いました。観光地等にも京大生に連れて行ってもらったのですが、ときに一人京都の街並みを歩き、周囲の様子や街を歩いている人を観察しました。神社やお寺、あるいは京都の名所を訪ねる際に、写真の枚数を一、二枚にリミットし、カメラのレンズではなく、自分の目で周りの風景を切り取り、深く感じるよう努めていました。知らず知らずのうちに、日本での経験を心に刻まなければならないという念に駆られていたのだと思います。

このプログラムでほぼ毎日京都大学に通い、日本語の授業や講義を受けました。短期間でしたが、京都大学でのキャンパスライフを経験することができました。特に強く感じたのは、京都大学のにぎやかさと自由な環境です。ここなら、心配なく勉強できると、心から思いました。来年三年生になる時に留学するつもりなので、また京都大学に来たいと思います。

くだらないことかもしれませんが、初めて親から離れた私はこのプログラムのおかげで自立したように思います。初めて自らホテルにチェックインし、新幹線や飛行機、駅から空港に行くリムジンバスのチケットを予約したりと、以前よりも自分に自信を持つことができました。